

Slovenia Monthly February 2024

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2024年3月11日



～2月の主なポイント～

内 政: シュヴァルツ=ピパン法務大臣の辞任、カティッチ氏の新法務大臣指名

外 政: スロベニアの国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)への資金援助決定

政治

【内政】

●シュヴァルツ=ピパン法相の辞任【6日、15日】

6日、ゴロブ首相は、シュヴァルツ=ピパン法務大臣が5日の夜にゴロブ首相と面会し、辞任を申し出たことを受け、同省によるリュブリャナの建物購入を巡る辞任を受け入れると述べた。ゴロブ首相は、複数の裁判所部門が入る予定の建物を770万ユーロで購入した件に関して、同大臣が調査結果を提示することで2人が合意したと述べた。この建物の購入については国家捜査局(NBI)と汚職防止委員会によって調査されている。

これに先立ち、法相の属するSD(社会民主党)においては、ジベルト事務局長が辞任した。同氏は、建物の購入に関して法務省の業務に干渉したとしてシュヴァルツ=ピパン法務大臣から非難されて注目を集めている。

15日、法務省のショルテス副大臣が、建物購入に関与したため、退任するシュヴァルツ=ピパン法相の提案により解任された。

15日、ゴロブ首相は、シュヴァルツ=ピパン法務大臣が辞任を申し出たことを国会に通告した。

●SDSの欧州議会選挙候補者リスト【6日】

野党民主党(SDS)の執行委員会は、次期欧州議会選挙の候補者リストをまとめ、現欧州議会議員ローマ・トムツ氏を筆頭候補者に指名し、SDSのもう一人の欧州議員ミラン・ズヴェリ氏はリストの2位となっ

た。3番目の候補者はアレシュ・ホイス副党首となっている。

●医師のストライキ【9日、13日、23日】

9日、1月25日前から続くストライキの一環として、病院に勤務する医師の約33%、地域医療センターに勤務する医師の17%が時間外労働の同意を撤回した。彼らの撤回が発効すれば、おおむね3月初旬には、公的医療制度に大きな影響を与えることが予想される。ストライキの最初の3週間で、病院は少なくとも6,900件の予約をキャンセルまたは延期した。ある病院では30%に上る予約がキャンセルされた一方、ほとんどキャンセルがなかった病院もある。ストの要求を解決するための話し合いは進展していない。

13日、医師のストライキが30日目を迎え、多くの診察や処置がキャンセルされたにもかかわらず、待機患者数は増えていない。国立公衆衛生研究所(NIJZ)のデータによれば、ストライキ期間中にキャンセルされた予約は昨年同期よりも少なく、待機患者数はわずかに減少している。

23日、ゴロブ首相は、1月15日に開始したストライキを直ちに終了し、医師だけでなく医療部門全体に関する協議の一環として交渉のテーブルにつくよう医師に求めた。また、ピルツ=ムサル大統領は、国の歴史上最長となっている医師たちのストライキの停止を求めた。

●デロ紙世論調査結果【10日】

デロ紙が依頼した世論調査では、野党民主党ヤンシャ党首が選択肢の一つとして提案しているゴロブ政

権不信任案は正当なものだとする回答が44.3%を占めた。一方で38.5%は政府不信任動議は正当化されないと回答した。

●SDを巡る動き【12日】

社会民主党(SD)は4月(おそらく13日)に党首選挙を開催する予定。また、前事務局長の辞任を受けて、経済省のフランゲシュ副大臣が暫定の事務局長に任命された。

デロ紙の最新世論調査によると、SDの支持率はこの1か月で7.5%から2.6%に低下しており、2005年以来受けた最低の支持率となっている。現時点で国民議会の選挙が実施された場合、議席を獲得することが困難な数字である。野党SDSの支持率は23.7%と2ポイント上昇し、引き続きトップの評価を得ている。一方、政府の支持率は今期これまでで最低となっており、55%以上が政府の取り組みに不満を抱いている。

●法務大臣、社会民主党を離党【13日】

退任するシュヴァルトツ＝ピパン法務大臣は、建物購入の件をめぐる所属する社会民主党(SD)と対立していたが、SD党大会と議長会議に招待されていないことが判明し、同党を離党することを決めた。同大臣は「党指導部は2週間も私と連絡を取っていない」とし、社会民主主義を信じていたが、SDとその指導部もそうだとはもはや信じていないと付け加えた。

●経済、観光、スポーツのインセンティブ6億7,200万ユーロ【14日】

本年、経済観光スポーツ省の自己資金および他の機関との協力を通じて、ビジネス、観光、スポーツの分野で総額6億7,240万ユーロのインセンティブが提供される予定。ハーン経済大臣は、同省は付加価値を高めることを目指していると述べた。総額の約半分の3億3,900万ユーロは同省の自己資金と同省が管理する基金から賄われる。

●企業の洪水被害に対しさらに1億9,500万ユーロを拠出【15日】

政府は、2023年8月に発生した洪水による企業への被害を修復するためのプログラムを採択し、これに基づき今年度国家予算から1億9,500万ユーロの国家支援を行う。昨年8月に発生した洪水と地滑りによる企業への被害修復プログラムは総額2億3,000万ユーロに相当し、経済省がまだ分配していない援助の残りの部分の支払いの法的根拠となる。

●SDS創立35周年【18日】

野党民主党(SDS)が35周年を迎え、ヤンチャ党首は同党はスロベニアの歴史の中で最も成功した政

治プロジェクトであると記念式典で述べた。私たちは喜ばれることなく正しいことをすると述べ、スロベニアの現状は、独立国民投票で国民が投票した方向へ向かわせるための「大きな警鐘」が必要だと述べた。最初の警鐘は3月21日に予定されるリュブリャナでのSDS集会、2回目の警鐘は6月9日のEU選挙であると述べた。

●世論調査、政府支持率が過去最低に【19日】

ドネウニク紙が委託したヴォックス・ポプリ社の世論調査によると、政府の支持率は過去最低の24.9%で、裁判所建設スキャンダルや公共部門のストライキを受け、政府の仕事がうまくいっていないとする人の割合は過去最高の70%に達した。建物購入に関連した汚職疑惑の渦中にあった社会民主党(SD)の支持率は、1月から52%急落して3.9%、自由運動党(GS)は10.7%に沈み、野党の民主党(SDS)は24%に上昇した。

●救急隊員がストライキに突入【19日】

19日、救急隊員がストライキに入った。国防省内の労働組合によると、ストライキは政府との合意が成立するまで続くが、112緊急番号でアクセスできる派遣サービスは支障なく運営されている。派遣隊員を代表する国防省労働組合のラー組合長は、ストライキが国民に影響を与えることはないと言断した。ラー代表は、政府が「ストを止めないまでも」ストを凍結する根拠となる一貫した提案を出すことを期待していると述べた。

●学校法改正案が可決、小学1年生から外国語が必修に【21日】

小学校法改正案が国民議会で可決され、スロベニアの生徒は小学校1年生から外国語を学ばなければならなくなる。また、小学校3年生での全国試験や、自宅学習の子どもたちに対する基準の厳格化などが改正の要点である。外国語学習必修化の引き下げ(小学校4年生から1年生へ)そのものについては超党派の支持を得たが、法案としては46対24で連立与党の支持を得たにすぎなかった。

●大統領、欧州議会選挙の6月9日実施を発表【23日】

ピルツ＝ムサル大統領は、欧州議会議員選挙を6月9日に実施することを求める政令に署名した。立候補者は3月11日に立候補届を提出し、選挙運動を開始することができる。ピルツ＝ムサル大統領はこの日の記者会見で、市民の責任は可能な限り多くの人々が選挙に参加することであると述べた。大統領は今後数か月間、講演会を開いたり、学校やその他の機関を訪問したりして、このことを提唱していく。また、有

権者に対し、EUに関する情報を入手し、偽情報ニュースキャンペーンに注意するよう呼びかけた。

●パレスチナ情勢に関する世論調査【24日】

メディアナ社が実施した世論調査では、回答者の大多数が、ガザにおけるイスラエルの行動は大量虐殺的であり、同国は国際法や人道法に違反していると考えている。彼らはまた、ガザにおけるイスラエルとパレスチナの紛争に関する外務省の現在の政策にほぼ同意している。しかし、イスラエル製品のボイコットやイスラエル選手の国際大会への参加禁止など、スロベニアのより厳しい反応に対しては消極的である。世論調査は2月20日から22日にかけて520人を対象に行われた。

●アンドレヤ・カティッチ元法務大臣が新法務大臣に指名【26日】

26日、ゴロブ首相はアンドレヤ・カティッチ元法務大臣を法務大臣候補として指名した。SDが選択肢の一つとして提案したカティッチ氏は、2018年9月から2020年3月まで法務大臣を務めていた。首相官邸は、カティッチ氏は26日にゴロブ首相と会談し、その経歴に基づいて法務大臣候補として選出されたと述べた。同氏は現在、結束・地域開発省の副大臣を務めている。

●ファヨン外務大臣が入院【26日】

26日にSTAが外務省から得た情報によれば、ファヨン外相は23日から国連総会と安保理出席のためにニューヨークに出張していたが、帰国後、25日午後から腎臓感染症の疑いで入院した。3月4日、同外相は退院した。

●ピルツ＝ムサル大統領が再び支持率トップに【26日】

POP TVの依頼によってメディアナ社が実施した世論調査によると、シュヴァルツ＝ピハン法務大臣の退任が、ファヨン外相を政界存続の瀬戸際に追い込んでおり、ファヨン外相が党首を務めるSDの支持率は8.7%から3%に低下した。ピルツ＝ムサル大統領は、政治家人気ランキングでロガル前外相の座を奪って再びトップとなった。民主党(SDS)は依然として世論調査で最も支持率の高い政党である一方、政府の支持率は先月から大幅に低下せず、30.4%にとどまった。

●政府、医師ストライキ中の患者支援策を採択【29日】

政府は、医師がストライキ中に提供しなければならない追加医療サービス、特に社会的弱者に関する追加医療サービスを列挙し、翌3月1日に施行された。

医師・歯科医師の労働組合であるFidesは、この政令は違法であると批判した。一方、プレヴオウニク＝ルペル保健大臣は、この措置は政府の法律専門家によって許可されたものであると述べた。現行のストライキ規則では、医師は緊急のケースに対応し、65歳以上または18歳未満の患者、妊婦、がん患者にサービスを提供する義務がある。

●昨年の天候による農業被害は約9,000万ユーロ【29日】

政府は、昨年の悪天候による農業被害額を確認した。霜による被害額は2,510万ユーロ、嵐による被害額は4,453万ユーロ、8月の洪水による被害額は1,874万ユーロであった。

【外政・EU・防衛等】

●スロベニア、ウクライナ支援合意に満足【1日】

1日、ブリュッセルにおける特別欧州理事会に出席したゴロブ首相は、スロベニアはEU首脳らが合意した500億ユーロのウクライナ支援合意に満足していると述べた。「予算が確認されたことが重要だ」と述べ、援助手段の実施に関する議論が毎年行われるという規定を歓迎したが、ハンガリーのオルバーン首相が最終的に合意を支持する代わりに何を受け取ったのかについてはコメントを拒否した。

●ファヨン外相、インド太平洋地域との協力拡大を呼びかけ【2日】

2日、ファヨン外相は、EU・インド太平洋閣僚フォーラムおよびEU・東南アジア諸国連合(ASEAN)外相会合に参加したEU外相の討論会に出席し、スロベニアは、インド太平洋地域および東南アジアのぬきんでた経済的・地勢戦略的重要性に鑑み、EUと同地域との協力強化に尽力していると述べた。

●AIの倫理に関するグローバル・フォーラム2024の開催【5日、6日】

5日及び6日にわたってスロベニアで「AIの倫理に関するグローバル・フォーラム2024」が開催され、同フォーラム参加者は、AI分野における急速な進展と、すべての人々の利益のために機能するAIの開発は、AIにおける主要な課題の2つであると述べた。本フォーラムには、67か国から600名以上の政府関係者、国際組織、学術関係者、研究機関、NGO及び経済界関係者が参加した。アズレー・ユネスコ事務局長は、気候変動とデジタル革命という新たな状況において、国際協力の重要性が増していると述べた。

5日、アズレー事務局長は、ゴロブ首相と会談し、ガザ地区における人道的災害や、スロベニアを含む旧ユーゴ諸国が、アウシュヴィッツのナチス強制収容

所跡地の博物館部門における共同展示を復活させるために最近署名した協定についても言及した。

●ピルツ＝ムサル大統領のボスニア・ヘルツェゴビナ訪問【9日】

ピルツ＝ムサル大統領は、ボスニア・ヘルツェゴビナへの2日間の公式訪問を終え、ボスニア・ヘルツェゴビナがEUの道を進み、その結果、進歩と発展が促進されることを望んでいると強調した。クリシュト閣僚評議会議長、アデモヴィッチ人民議会(上院)議長、チャバラ代議院(下院)議長に面会し、また、サラエボオリンピック40周年記念行事の一環として、ビエラシュニツァ・スキーリゾートのスラロームコースにスロベニア人スキーヤー、ユーリ・フランコ氏の名前を付ける式典に参加した。

●エジプト外相のスロベニア訪問【12日】

シュクリ・エジプト外相はスロベニアを訪問し、ファヨン外相との記者会見において、ファヨン外相は、スロベニアは民間人への攻撃を非難し、ガザでの停戦と人道支援への無料アクセスを呼びかけると述べた。シュクリ外相はガザ住民の強制移住を非難し、国際社会に行動をとるよう求めた。またシュクリ大臣はガザ情勢に関するスロベニアの立場を称賛し、早期の停戦と二国家解決を求めた。両外相はスロベニア・エジプト経済協力委員会の第2回会合をホストした。

●ファヨン外相のハーグ訪問【14日、15日】

14日、ファヨン外相はハーグにおいて、リュブリャナで昨年採択された、大量虐殺、人道に対する罪、戦争犯罪、その他の国際犯罪の捜査及び訴追における国際協力に関するハーグ条約に署名した。ファヨン外相は、この条約は不処罰との闘いと最も残虐な国際犯罪行為の被害者への正義の追求を強化するものであると強調した。

15日、ファヨン外相は、オランダのハンケ・ブラインス・スロット外相とハーグで会談した。ファヨン外相は、2030年までの西バルカンへのEU拡大に対するスロベニアの支持を改めて表明し、3月にボスニア・ヘルツェゴビナがEUと交渉を開始することをオランダが支持するよう呼びかけた。

●FAO事務局長のスロベニア訪問【14日】

12日～14日、国連食糧農業機関(FAO)のQu Dongyu事務局長はスロベニアを訪問し、最終日に、チャルシッチ農業大臣とともにスロベニアの海岸地方を訪問した。同省によると、同大臣はFAOとのさまざまな協力分野や利害関係者との協力における好事例、女性、若い農民の参加、農業研究などを事務局長に紹介した。Dongyu事務局長はピルツ＝ムサル大統領の招待でスロベニアを訪問し、12日にスロベ

ニア養蜂家協会のノチ会長と会談して訪問を開始した。

●ゴロブ首相のミュンヘン安全保障会議出席【16日、17日、18日】

16日、ゴロブ首相は、ミュンヘン安全保障会議に出席した際、ハリス米副大統領、グテーレス国連事務総長とそれぞれ会談し、ガザ情勢について議論した。

17日、ミュンヘン安全保障会議のパネルディスカッションで、「国連安全保障理事会の改革は時期尚早だ」と述べた。「我々は危機の時代に生きており、何よりもまず解決策に焦点を当てることが重要であり、焦点を奪う改革に焦点を当てることはできないが、スロベニアは安保理における拒否権の乱用をなくすことに焦点を当てると述べた。ゴロブ首相は赤十字国際委員会(ICRC)のスポルヤリッチ＝エガー会長、ヨルダンのアブドラ2世、カタールのアブドゥルラフマン＝アル＝タニ首相、WHOのテドロス事務局長、オープン・ソサエティ財団のアレクサンダー・ソロス理事長らとも会談し、中東情勢が議論された。

18日、ゴロブ首相は、放送局アルジャジーラのインタビューで、ガザ地区ラファへの侵攻を防ぐためにあらゆる手を尽くすべきとの考えを繰り返した。

●ロシア・ナヴァリヌイ氏の死に関する反応【16日、19日、20日】

16日、獄中のロシア野党指導者ナヴァリヌイ氏の死に対し、ピルツ＝ムサル大統領はロシアの民主主義にとって大きな衝撃であると、ゴロブ首相は人権にとって悲しい一日であると、ファヨン外相は自由と民主主義のために戦い続けた人物の喪失であり彼の戦いは生き続けると述べた。

19日、ダリヤ・バブダジュ・クレト駐ロシア・スロベニア大使は、ロシアの野党指導者ナヴァリヌイ氏に敬意を表し、政治弾圧の犠牲者追悼碑に献花した。

19日夜、外務・欧州省は、ナヴァリヌイ氏の死を巡る協議のためにEyvazov駐スロベニア・ロシア大使を召喚し、20日朝に面談が行われた。ファヨン外相は、ナヴァリヌイ氏の死に対する懸念と怒りを表明するためにそうしたものであり、スロベニアはロシアに対し、同氏の死の状況について国際的かつ独立した調査を許可するよう求めたと述べた。シュトゥチン外務副大臣は、同氏の死を受けてEUレベルでの潜在的措置について協議が続いており、スロベニアは対ロシア追加制裁を支持する可能性が高いと述べた。

●ファヨン外相、EU・イスラエル貿易協定の見直し要求に同意【19日】

ファヨン外相は、スロベニアは、中東情勢とウクライナ情勢に焦点を当てたEU外相会合で、スペインとアイルランドが欧州委員会に対し、EUとイスラエルの連

合協定の見直しを求めていることを支持すると述べた。また、同外相は、スロベニアは間もなくガザに人道援助を送り、紅海でフシ派の攻撃から貨物船を守るための新たなEU海軍作戦に貢献する予定であると述べた。

●ヨルダン外相のスロベニア訪問【20日】

ファヨン外相、スロベニア訪問中のヨルダンのサファディ外相と会談を行い、両大臣は会談後の記者会見でガザでの即時停戦を呼び掛けた。両大臣は即時停戦に関する安保理決議案を支持していたが、米国が拒否権を発動した。両大臣は、ハマスがラマダンの始まる3月10日までに人質全員を解放しなければ、ラファへの攻撃を開始するとイスラエルが脅迫したことを受けて、ガザの状況が激化する可能性があるかと懸念を表明した。両首脳はまた、ビジネス、特に観光分野でさらなる協力の機会があると考えている二国間関係についても議論した。

●スロベニア、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)への資金援助とガザへの援助を拡大へ【22日】

22日、スロベニア政府は、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)に50万ユーロを拠出すると発表した。また、43万4,105ユーロと見積られる物資援助をパレスチナ市民に送る。UNRWAへの資金援助を継続するという政府の決定は、グテーレス国連事務総長による資金援助継続の呼びかけに応えたものである。UNRWAの資金不足は、ガザ、ヨルダン川西岸、ヨルダン、レバノン、シリアの難民キャンプにおける人道支援システムの完全崩壊のリスクをもたらす、と政府は述べた。

ファヨン外相は、物資支援の決定について、「政府が我々の能力に見合った新たな資金援助パッケージを受け入れたことをうれしく思う」と述べた。一方、ジュボガル国連安保理代表は、これまでに停戦を求めることで一致団結することができなかったことにふれて、「安保理にも災難が迫っている」と警告した。

●スロベニア、パレスチナ人の自決権を強調【23日】

スロベニアは、ハーグ国際司法裁判所に出廷し、1967年以来ガザ地区とヨルダン川西岸地区でのイスラエルの行動について、国連総会が2022年12月に開始した手続きの一環として、パレスチナ人の自決権を強調した。同国はまた、占領軍としてのイスラエルの国際法尊重義務を強調し、イスラエル・パレスチナ紛争の二国間解決を促した。

●ウクライナ戦争2周年【23日、24日】

23日、ファヨン外相は、国連総会にて、ロシアのウクライナ侵攻2周年を前に、時には不可能に思えるこ

ともあるが、いつかウクライナに平和が戻るだろうと述べた。国際社会は、ウクライナの和平方式から生まれる和平プロセスを支援することで、この実現に貢献できる、と同外相は述べた。同外相は、国際法を尊重し、犯罪に対する説明責任を果たすことの重要性を強調し、国際社会は、ウクライナに対する侵略犯罪のための特別法廷を通じてそれを行うことができると述べた。

23日、ピルツ＝ムサル大統領は外交団向けのイベントで演説し、ウクライナが対等な発言権を持たないような戦争結果は国際社会が容認してはならないと述べた。

24日、ゴロブ首相は、ロシアによるウクライナ攻撃から2周年を迎え、「国際法の原則を完全に無視した」2年間について演説した。

●ウクライナへの派兵に否定的【27日】

スロベニアは、西側同盟国がウクライナ支援のために軍隊を派遣することもできるとするマクロン仏大統領の提案から距離を置く西側諸国に加わった。首相府は、スロベニアではウクライナへの軍隊派遣の準備は進んでおらず、この問題についてEUレベルでの合意も得られていないと述べ、スロベニアがそのような措置の準備をしていないと強調した。

●スウェーデンのNATO加盟に対するハンガリーの支持を歓迎【27日】

ゴロブ首相は、スウェーデンのNATO加盟を批准するというハンガリー議会の決定を歓迎し、これはより重要で強力な同盟に向けた重要な一歩であると述べた。外務省もこの決定を歓迎した。スウェーデンのNATO加盟は同盟と加盟国の安全を強化するとしている。

●ピルツ＝ムサル大統領のブルガリア訪問【27日】

ピルツ＝ムサル大統領はブルガリアを公式訪問し、スロベニアとブルガリア間の経済協力を強化するさらなる努力の重要性を強調した。同大統領はブルガリアがユーロ圏加盟の基準をすぐに満たすことを期待しており、ユーロは観光業を含むビジネスや国民にとってプラスであると述べた。

●ヴォウク首相府副大臣の米国訪問【28日】

首相府のヴォウク副大臣は、2日間の訪米を終え、複数の政府高官と会談し、二国間関係やウクライナ、ガザ、西バルカン情勢について話し合った。ヴォウク副大臣は、今回の訪問はゴロブ首相のホワイトハウス訪問の準備のためであると述べたが、詳細は明らかにしなかった。

●ヤンシャ前首相のイスラエル訪問【28日】

シュティグリッツ外務・欧州副大臣は、国民議会の外交委員会において、外務省とテルアビブのスロベニア大使館は、野党指導者ヤンシャ氏の最近のイスラエル訪問について知らされていないと、明らかにした。ヤンシャ氏が再び首相に就任した場合、大使館をエルサレムに移転したいとしているが、政府はその意向はないと述べた。

●国民議会議長のキプロス訪問【29日】

クラコチャル＝ズパンチッチ国民議会議長はキプロスの首都ニコシアを訪問し、ディミトリウ・キプロス議会議長と会談した。クラコチャル＝ズパンチッチ議長は、スロベニアがキプロス問題解決のための国連主導の交渉プロセスを支持していることを強調し、また、スロベニア軍部隊が再配置されることになるキプロス国連平和維持軍の任務延長に対する支持を表明した。

経済・統計

●2023年の輸出は4.4%増、輸入は0.6%増【2日】

2023年の輸出額は549億ユーロで、2022年比で4.4%増加した。輸入は570億ユーロに達し、2022年より0.6%増加した。対外貿易赤字は21億ユーロで、輸出入比率は96.4%であった。EU諸国への輸出は2022年比で5.2%減少したが、非EU諸国への輸出は19.4%増加した。

●ウィズ・エア、リュブリャナからロンドンへの便を廃止【5日】

5日、ウィズ・エアはリュブリャナとロンドンのルートン空港を結ぶ路線を廃止すると発表。最終便は13日だった。しかし、スロベニアの首都とロンドンにはブリティッシュ・エアウェイズとイージー・ジェットによって結ばれ続ける。ブリティッシュ・エアウェイズはヒースロー空港へ週7便、イージー・ジェットはガトウィック空港へ週6便を運航する。

●リュブリャナ発ルクセンブルク行きの飛行機がミュンヘンに緊急着陸【8日】

4日にリュブリャナ空港を離陸し、ルクセンブルクに向かったルクスエア機が、操縦室のガラスが割れたため、ミュンヘンに緊急着陸したと、ミュンヘン空港とドイツの報道機関dpaが8日に伝えた。LG5682便は4日の午後12時10分にリュブリャナを出発。同機は14時5分にルクセンブルクに着陸する予定だったが、13時50分頃にミュンヘンに緊急着陸を余儀なくされた。パイロットは操縦室の窓ガラスが割れたと報告し、ミュンヘン空港が用意した場所に安全に緊急着陸した。乗客は他の便に移された。

●昨年の工業生産高5.3%減、12月の大幅減が寄与【9日】

昨年の工業生産高は2022年に比べ5.3%減少した。秋の好調な傾向の後、12月の生産高が前年同月比で10.2%減少したことが大きく寄与した。工業生産高は、全ての主要事業において前年比減少し、中でも電気・ガス・蒸気供給(-31.9%)が最大の落ち込みを記録し、鉱業・採石業(-15.7%)、製造業(-4.1%)が続いた。2023年の工業総売上高は前年比1.1%減となり、海外市場では1.3%減、国内市場では0.5%減となった。

●2023年の経常収支は黒字【13日】

スロベニアは2023年に28億ユーロの経常黒字を記録し、6億ユーロの赤字を計上した2022年から大幅に改善した。黒字に最も貢献したのは物品貿易で、スロベニア中央銀行は、スロベニアと世界との経済関係に関して、物品貿易は2022年には22億ユーロの赤字であったのに対し、昨年は4億6,000万ユーロの黒字を計上したと述べた。

●2023年の外国人観光客による観光収入は過去最高の32.4億ユーロ【13日】

中央銀行のデータによると、2023年にスロベニアで外国人観光客によって生み出された収入は史上初めて30億ユーロを超え、32.4億ユーロに達し、2022年に比べて9%増加した。新型コロナ大流行により2020年に急落する前の2019年には28.4億ユーロで、昨年はこの数字を14%上回った。

●スロベニア経済は2023年に1.6%拡大【14日】

統計局が発表した暫定データによると、スロベニア経済は2023年、総固定資本形成と家計支出によって1.6%拡大した。政府のマクロ経済予測機関であるマクロ経済分析研究所は、昨年の成長率は秋の時点での予測とほぼ一致していると述べた。2022年のGDP成長率は2.5%であった。

●欧州委員会、スロベニアの2024年GDP予測はほぼ横ばい【15日】

欧州委員会は2024年冬期の経済見通しにおいて、スロベニアの国内総生産(GDP)は今年1.9%、2025年には2.7%拡大すると予想しており、秋の見通しとほぼ変わらないと、企業マインドの低迷と輸出需要の低迷が2024年初頭の成長を抑制すると予想している。堅調な投資が続き、輸出市場の需要が回復すれば、成長率は改善すると予想される。

●2023年の平均給与、2022年より10分の1上昇【15日】

統計局の発表によると、昨年の平均給与総額は月2,221ユーロで、2022年に比べ名目で9.7%、実質で2.1%増加した。平均純給与は1,445ユーロに達し、名目で9.6%、実質で2%増加した。公共部門の平均給与総額は10.3%増、民間部門は9.4%増であった。12月の平均賃金総額は2,348ユーロで、11月に比べ名目で3.2%、実質で2.7%減少した。12月の平均純賃金は1,530ユーロで、11月に比べ名目で4%、実質で3.5%減少した。

●市民が2億5,800万ユーロ相当の債券を引き受ける【19日】

2月1日から16日にかけて、9,000人以上のスロベニアの個人投資家が利回り3.4%の2億5,840万ユーロ相当の債券購入希望を表明した。政府は2億5,000万ユーロ相当の債券発行を計画していたが、今回、需要に応じて合計で2億6,100万ユーロに増額されることを決定した。債券は23日に発行された。この数字には、リュブリャナ証券取引所と証券取引所外の取引で流動性を維持するために銀行NKBMに割り当てられた1%が含まれているとボシュヤンツァ財相は記者団に語った。

●銀行は2023年に10億ユーロ以上の利益を計上【20日】

スロベニアの銀行の2023年の運営は好調で、税引き前利益は前年比109%増の約11億4,000万ユーロを記録した。中央銀行によると、純利益は119%増の11億ユーロとなった。昨年の純金利収入は14億4,000万ユーロで、2022年比で93%増加した。一方、非金利収入は6%近く減少して5億3,540万ユーロとなった。

●スロベニア西部と東部の開発格差がさらに拡大【20日】

ユーロスタットのデータによると、スロベニアの西と東の開発格差は2022年に再び拡大した。購買力基準(PPS)における西スロベニアの一人当たりGDPはEU平均の109%であったのに対し、東スロベニアは73%であった。2021年にはそれぞれ107%、74%であった。

●コペルの2023年港湾収入は2022年並み、純利益は24%減の5,640万ユーロ【22日】

港湾運営会社ルカ・コペル社は、2023年の純収入を2022年並みの312.8ユーロ、純利益を24%減の5,440万ユーロと発表した。同社によると、コスト増の中、予想を上回る結果となった。金利控除前利益(EBIT)は27%減の6,090万ユーロで、ルカ・コペルはコンテナの保管期間短縮の影響を強調し、グ

ローバル・ロジスティクスの安定化の結果として、保管料収入が2,100万ユーロ減少した。

●政府、外国投資家のインセンティブ取得を容易にする変更を採択【22日】

政府は投資促進法の改正を採択し、インセンティブが支給される時点で登録されている見込みの外国企業にもインセンティブを支給できるようになった。政府は、これはお役所仕事を削減するための一歩であり、外国投資家がスロベニアに投資するための追加的なインセンティブであると主張している。EU法の改正を受けた今回の改正案には、投資家がまだスロベニアに登録された会社や外国企業の子会社を持っていなくても、投資インセンティブの申請書を提出できることを明確にする一定の条項が含まれている。

●月の消費者信頼感、わずかに低下【22日】

スロベニアの2月の消費者信頼感指数は、前月比で1ポイント低下し、前年同月比では5ポイント上昇した。統計局の発表によると、長期平均を依然6ポイント下回っている。前月比の下落は、主に国内経済の状況に関するより悲観的な予想と、家計における将来の財政状況に関する予想(それぞれ2ポイント下落)に起因している。

●2月の景況感、やや悪化【23日】

スロベニアの2月の景況感は、0.1ポイント低下の-3.3ポイントと、わずかに悪化した。統計局のデータによると、前年同月比で景況感は1.9ポイント悪化した。1月と比べ、製造業(-0.8ポイント)、小売業、建設業(共に-0.3ポイント)で悪化し、消費者の信頼感も低下した(-0.2ポイント)。サービス業は唯一センチメントが改善し、1.5ポイント上昇した。

●コペルーディヴァチャ間の最後の高架橋が完成【28日】

コペルーディヴァチャ間の新しい線路の最後の高架橋の完成を記念する式典が行われ、スロベニア政府高官らは11億1,000万ユーロのプロジェクトの進捗状況に満足の意を表明した。この鉄道路線は、同国唯一の商業港とディヴァチャ鉄道ジャンクション、そしてスロベニアの他の地域やヨーロッパを結ぶもので、2026年の開通を予定している。また、2026年から2030年にかけては、並行する線路の建設も予定されている。

●シンクタンク、2024年のGDP成長率予測を2.4%に下方修正【29日】

マクロ経済分析開発研究所(IMAD)は、スロベニアの今年の経済成長率予測を0.4ポイント引き下げ、2.4%とした。政府系シンクタンクは、2025年の

予測を2.5%に据え置く一方、2026年は2.6%の成長を予測している。インフレ率は今年の大半は落ち着き、その後再び少し上昇すると予想されている。

●2月の年間インフレ率は3.4%に微増【29日】

スロベニアの2月の年間インフレ率は3.4%となり、1月の3.3%から上昇した。統計局の統計によると、年間インフレ率は9.3%を記録した1年前を大幅に下回っている。昨年2月と比較すると、サービスは5.1%、物品は2.6%高くなっている。2月の年間インフレ率に大きく寄与したのは、医療費(10.9%増)と住宅、水道、電気、ガス、その他燃料(4.7%増)の値上がりであった。

●1月の失業率調査、3.3%に低下【29日】

スロベニアの1月の調査失業率は3.3%となり、前月比0.1ポイント、前年同月比0.3ポイント低下したことが、統計局発表のデータで明らかになった。これは、統計局が調査失業率の記録を開始した2010年1月以来の低さである。1月には15歳から74歳までの約34,000人が失業し、その53%が男性、47%が女性だった。失業率は男性が3.1%、女性が3.4%だった。

治安・事件事故

●リュブリャナ市内バスで女性が刺される【5日】

リュブリャナ警察の発表によると、5日朝リュブリャナ市内のバスで女性が知人に刺された。女性は治療のためUKCリュブリャナに搬送され、加害者は逮捕された。ニュースポータルサイトSiolは、被害者の命に別状はなく、男は他の乗客に制止されたと報じている。リュブリャナの公共交通会社LPPによると、リュブリャナ市内のバスでこのようなことが起きたのは初めてだという。

●78歳男性の口座から14万ユーロが消える【16日】

16日、セジャナに住む78歳の男性が詐欺被害に遭い14万ユーロを失った。見知らぬ男から電話があり、彼の仮想通貨の口座に17,000ユーロが入っていると告げられ、それを送金するためには銀行口座の詳細が必要だと言われた。被害者はこの話を信じ、犯人に銀行口座の詳細と暗証番号を教えたため、犯人から全ての現金を引き出されて盗まれた。

●サッカーの試合でスタングレネード(閃光手榴弾)により選手とコーチが負傷【18日】

18日、ムルスカ・ソボタで行われた対ムラ戦の試合中、マリボルのサポーターが爆発させたスタングレネードの爆発により、ホームチームの選手5名とコー

チ1名が負傷した。6名全員が手当てを受け、1名は永久的な難聴を除くための経過観察を受けるため一晩入院した。手榴弾はFCマリボル・サポーターの組織的グループのメンバーによって爆発させられたと見られている。

●3人組の男達が男性に現金を要求し、財布を奪い、殴って逃走【21日】

21日の午後、マリボルのトゥルジャシュカ通り付近で強盗事件が発生した。3人の男が被害者の男性に近づいて現金を要求した。男性がこれを拒否すると、犯人らは刃物で男性を脅し、男性から財布を奪い、男性を殴った後、現場から立ち去った。

●リュブリャナ中心部の商店をはじめ各地で強盗事件が発生【24日】

24日の午後7時半頃、リュブリャナ中心部チリル・メドフ広場にある商店に男が侵入し、刃物を使って女性従業員を脅した後、レジから紙幣数枚を奪い、徒歩で逃走した。従業員の1人が軽傷を負った。この事件のほかにも、リュブリャナ周辺では過去48時間以内に数件の窃盗事件が発生した。グロスプリエの民家から現金約3,300ユーロ、リティヤとドムジャーレの2軒の民家から現金4,300ユーロと数千ユーロ、そして宝飾品が盗まれた。リュブリャナのベジグラドでは、何者かが民家に侵入し、500ユーロ相当のガーデンツールが盗まれた。またヴルフニカ近郊の民家とホリユル近郊の民家においても、それぞれ数百ユーロと数千ユーロ相当の様々な品物が盗まれた。リュブリャナのヴィッチ地区では、何者かが商店に押し入り、タバコ約2千ユーロ相当が盗まれた。

●収容外国人の増加で刑務所は過密状態に【27日】

刑務所管理局によると、26日現在、スロベニアでは合計1,808人が収監されており、刑務所の平均収容率は139%を超えている。不法越境容疑で収容された者が急増しており、現在850人の外国人が同容疑で刑務所に収容されており、刑務所の収容定員を超過している。刑務所管理局は、人員不足と過密状態の刑務所が治安上の課題となっていることを認めており、550人の司法警察官ではすべての法的義務を果たすには不十分であり、さらに100人以上が必要であるとしている。

●ノボメストで発生した性暴力の容疑者を逮捕【28日】

先週、ノボメスト警察は、性的暴行の疑いでコソボ国籍の25歳の男を逮捕した。この男は、18日午後5時過ぎ、ノボメストの森の散歩道で、散歩中の女性を地面に突き飛ばして性的暴行を加えたとされている。

容疑者の男は、現場に他のグループが近づいて来たことに気付き、被害者を解放した。19日、この事件の通報を受けた警察が捜査を開始し、人相をもとに犯人を特定した。

社会・文化・スポーツ

【スポーツ】

●ルカ・ドンチッチ、パリ五輪予選大会出場か【7日】

スロベニア・バスケットボールのスーパースター、ルカ・ドンチッチが、7月にギリシャで開催されるオリンピック予選大会へのスロベニア代表チーム出場に関する憶測に終止符を打ち、怪我がなければ出場すると語った。

●コスがスキージャンプ・ワールドカップで個人総合初優勝【10日】

スキージャンプのワールドカップ第1戦がアメリカ、レイクプラシッドで開催され、24歳のロブロ・コスがワールドカップ個人戦初優勝を飾った。コスは278.9ポイントを獲得し、2位の日本の小林陵侑に0.8ポイント差をつけての優勝だった。

●スキージャンプ男子ワールドカップでドーマン・プレブツ優勝【20日】

スキージャンプのドーマン・プレブツは、札幌で開催されたワールドカップで優勝し、スロベニアはワールドカップ個人戦80勝目を挙げた。同選手は273.6点で優勝し、日本の小林陵侑に3.8点差をつけた。

【科学技術、その他】

●文化の日を祝う数々のイベント【8日】

スロベニアは、文化的業績と文化が公的・私的領域で果たす役割に捧げる祝日「文化の日」を祝った。全国各地で数多くのイベントが開催され、多くの博物館やその他の文化施設が無料のガイドツアーを提供した。1800年にスロベニアの吟遊詩人フランス・プレシエレンが生まれたスロベニア北西部のヴルバ村や、1849年に彼が亡くなった南東約30キロのクラニの町は、このところ特に活気に満ちている。例年通り、リュブリャナのプレシエレン広場では、演劇俳優協会のメンバーが毎年恒例のプレシエレン詩の朗読会を開催した。

●リュブリャナでカーニバル・パレード【10日】

伝統的な衣装や仮面をつけたキャラクター、幼稚園児や小学生のグループが、緑色の大きなドラゴンを先頭にリュブリャナの通りを練り歩く長いカーニバル・パレードに参加した。リュブリャナのマスコットがパレードを先導し、旧市街を通り抜け、三本橋やプレシエレン広場など、リュブリャナの主要なランドマークを横切った後、コンGRES広場で盛大なパーティーが行われた。

●科学とイノベーションの新時代の始まりを示す新しいバイオテクノロジーハブ【12日】

国立生物学研究所のバイオテクノロジーハブが開設され、同研究所所長のマヤ・ラヴニカル氏はこれを「科学的探求、革新、ビジネスとの協力の新時代の始まり」と表現した。3,600万ユーロ相当の新しい拠点は、研究に大幅に良い条件をもたらします。パピッチ高等教育大臣は、このプロジェクトは科学と研究のために計画されているイノベーションの波の始まりを示しており、同省はそのために約5億ユーロを割り当てると述べた。

●スロベニアの新生児数が過去最低に【14日】

国家統計局(SURS)の暫定データによると、スロベニアの昨年の新生児数は前年より5%減少して1万6,800人となり、1922年の記録開始以来最低の数となった。近年の出生数減少の最大の原因は、出産適齢期(15~49歳)の女性の数が減少していることであり、SURSによると、その数(出産適齢期の女性の数)は2000年から2022年の間に18%減少したという。

●臓器摘出取り違え事件が判明【16日】

16日、組織サンプルの取り違えにより、1月にリュブリャナ腫瘍学研究所で間違った患者の胃が摘出された。民間診断業者バルソス・メディカル・センターは、この事件を保健省に報告し、監督を要請した。保健省はこの問題を調査する予定である。

21日、RTVは、2023年初めにもほぼ同じ取り違え事件が発生し前立腺の全摘出手術が行われたと報じた。どちらのケースでも、組織検査のプロバイダーは、ジャーナリストがこの問題を取り上げるまで、手順に従わず保健省に報告しなかった。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282 Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

